

小児科限界ワクチン不足も

子どもへの接種 予約殺到

基礎疾患があるため、新型ワクチンの優先接種を受ける女児=11月19日、名古屋市内の病院で



新型インフルエンザのワクチン接種で、小児科医院などに予約が殺到している。愛知県では配布されるワクチンが大幅に足りず、岐阜県でも一日から始まる小学四～六年生対象の予約を最初からしない小児科も出ている。

新型インフル

愛知県では十二月七日ごろから、健康な一歳～小学三年生と、基礎疾患を持つ小学四年生以上の予防接種を開始予定。対象者は計百十三万人いるが、この分として十一月下旬に配布されたワクチンは、約二十三万回分しかない。高校三年生ま

では当面二回接種が必要で、とても足りない状況だ。

名古屋市内西区の名鉄病院では、十一月十八日に健康な幼児らの予約受け付けを始めて、百人分がすぐに満杯になった。今週内に再び予約受け付けを再開するが、中には一回目の接種予定日が十二月末になる対象者もいる。二回目の接種は、遅ければ一月中旬の見込みだ。

国立感染症研究所は、五～十四歳の約半数がすでに感染したと推計しており、今後、必要なワクチンの量が減る可能性もあり、中には「それほど慌ててワクチンにこだわる状況ではない」と分析する。専門家や医師もいる。

岐阜市のある小児科医院には、一歳～小学三年生の予約が始まった十一月十二日に予約が殺到。申し込みは二日目で五百件近くに達し、受け入れられないとされ、受け

えら「として二日目の途中からすべて受け付けを打ち切らざるを得なかった。医師は「診察をしながら、事故を起こさずに接種するにはこれ以上予約を受けることはできない」と話す。

岐阜県小児科医会はホームページで岐阜、各務原、大垣市の二十四小児科医院で現在どこが予約ができるかが分かる一覧を表示。このうち、十一月二十日に受け付けが始まった乳児の保護者対象の予約は十四医院、一日からの小学校高学年の予約は七医院が「受け入れ不能」とされ、受け

関は空いているケースが多い」と分散予約を呼び掛けている。一方、予約を入れた人が新型インフル

エンザに感染してしまい、抗体が得られたために予防接種をキャンセルする例も相次いでいるという。

異常行動の症例増

インフルエンザと診断され、飛び降りなど重度の異常行動を起こした症例は九月下旬以降、計百五十一例に上ることが三十日、厚生労働省研究班の中間報告で分かった。

ほとんどは新型インフルの患者だった。昨冬全体の百七十九例に迫り、一昨年冬(七十七例)に比べてほぼ倍増

している。

抗インフルエンザ薬を服用していなかった例も含まれることから、同省は服用していた抗インフルは薬服用の有無にかかわらず異常行動を起こす恐れがあるとして、発熱後二日間、小児など未成年者から目を離さないよう注意を呼び掛けている。

中間報告は、全国の医療機関が九月二十五日、十一月十五日に報告した症例を分析。年齢は十一～十三歳の小児が中心で、異常行動の約八割は発熱後二日までに起きていた。

新型の小児患者中心 発熱後2日は注意を

「どち」も十六例